

2013年秋学期レポート

2013年5月にギャロデット大学ソーシャルワーク学士課程を修了し、卒業した。9月には同大学大学院に進学し、行政学(Master of Public Administration)と国際開発学(International Development)を専攻している。今学期は大学院初の学期となる。

ソーシャルワーク学士課程では、ミクロ(個人)・メゾ(集団・家族)・マクロ(地域・団体・行政)の3レベルでの、ニーズの特定方法や支援方法を学んだ。そうしていく中で、マクロレベルでのろう者の権利アドボカシー(権利擁護、政策提言)をしたいと思いが強くなった。また、ゆくゆくはアジア発展にも貢献したいという目標が留学当初からある。そこで行政学と国際開発学を専攻することに決めた。

行政学では、公共団体・組織の運営方法、政策形成過程、行政管理における意思決定のあり方等を学び、ろう者のニーズに対応した行政のあり方を学ぶ。国際開発学では、国際関係、社会的・政治的・経済的開発理論、開発政策や事業計画の分析・策定・実行・評価方法、人権アドボカシー等を学び、ろう者のニーズをどう政策に反映させるかを学ぶ。また、障害者権利条約のモデルとなった1990年制定の障害のあるアメリカ人法(ADA法)の現状や課題点などについて学び、日本にどう応用できるかを考えたい。

今学期は毎週課せられる読書や課題の量が学部生の時よりも多く、それらをこなすだけで精一杯で、学期後半は最終課題が思うように進まず苦労した。新しいことの連続ながらも、今学期も多くの方々に支えられ、多くを学び、様々な事にチャレンジすることができ、また少し成長することができたと思う。

履修クラス

1) Introduction to Research / 研究法入門

このクラスは、大学4年生の時に履修した研究法と同様、様々な研究方法や評価方法、仮説の立てかた、データの収集方法、データの信頼性や妥当性の測定方法、グラフの書き方、既存データや文献の分析方法・解説方法などについて学んだ。大学4年のクラスと違う面は、このクラスは特にリサーチ過程における倫理性に重点を置いていることである。例えば、ある民族またはコミュニティの研究をすることになった時、研究者メンバーの中にその研究対象となる民族またはコミュニティの一員が含まれているか、また、研究者メンバーのその民族・コミュニティの理解度によって、研究結果が異なってくる。例えば「ろう者におけるうつ病の発症率は聴者よりも低い」とした研究があったとしよう。うつ病症状診断は口話で行われたのか？手話で行われたのか？研究者は聴者とろう者間に文化の違いや言葉の解釈のズレがあることを理解していたか？この小さなズレを見逃すと、リサーチ結果の妥当性が低くなる。

研究法入門クラスの学期末課題は、各自テーマを決め、テーマに合った3つの研究論文を読み、それぞれの研究の信頼性と妥当性を検証・評価することであった。

私は「雇用分野におけるADA法の効果」に関する研究論文を評価することにした。1990年にADA法が制定されてから20年以上経つが、まだ新しい分野だからか、効果に関

する研究論文はまだ少ない。ろう者に限定した研究は1つしか見つからなかったため、他の2つは障害者全般と盲者に関する研究論文にした。

障害者全般に関する研究論文は、雇用機会均等委員会に雇用差別の救済申し立てを行った障害者の障害の種類、性別、年齢、人種を比較したものである。盲者に関する論文は、盲者が職場で配慮を要望する際に生じる障壁について研究したもの、ろう者に関する論文は、職場でのろう被雇用者に対する配慮の実施率についての研究であった。

研究の研究手法を分析し、信頼性・妥当性を検証していく。各パートごとに細かいチェックが求められるが、チェックポイントをいくつか紹介したい。

- 先行研究を十分にレビューし、研究課題の背景を多角的に理解した上で、今回の研究の必要性が明確に述べられているか？
- 参照文献は信頼性の高い文献であるか(一次資料か二次資料か)？
- 参照文献におけるバイアスは考慮されているか(研究機関名)？
- サンプルングで選出された調査対象者は母集団をうまく反映できているか(例:サンプル数、選出方法、サンプルの属性分析)？
- データはどのように収集されたか(量的研究か質的研究か、例:テスト、アンケート、インタビュー、観察)？
- 調査対象者とのやりとりや、調査に使用されたテストやアンケート用紙等では、対象者が理解しやすく明確な言葉が使われたか？
- データ分析の際、トライアングレーション、ピア・デブリーフィング、メンバー・チェックなどは行われたか？
- 研究の欠点や課題点は把握しているか？
- 他

このクラスを通して、全ての論文の研究結果が信頼できる結果ではないということを学んだ。また、研究の費用や時間の関係で、しっかりとした研究ができなかった論文もある。研究課題が重要なものでも、研究手法がおろそかな場合、研究結果の信頼性は低くなる。

2) Redesign Organization / 企業・組織再編成

時代の変化にともない、人々のニーズも変化してくる。それを見据えたうえで企業・組織を運営し、ニーズにあったサービスを社会に提供できなければ、生き残ることができない。また、企業・組織内の構造が効率的・効果的に機能していない場合も同様のことが言える。このクラスでは、組織の分析方法、社会的ニーズの特定方法、再編成の方法、再編成する際の課題点とその対策などを学んだ。

ファイナルはグループプロジェクトで、(1)なぜ企業・再編成は重要であるのか、(2)再編成にあたり障壁となるものはなにか、(3)再編成の際に起きる内部での抵抗にどううまく対応するか、(4)再編成の際、どのような対人能力がリーダーに求められるか、(5)再編成に成功した企業・組織の例を調べ発表した。

3) Introduction to International Development / 国際開発入門

国際開発に関する様々な理論と戦略を学んだ。貧困、男女不平等、所得不均衡、環境、資源、戦争・紛争、宗教、民族、ガバナンス等、開発の妨げとなっている課題について学び、それに対する各国際開発組織の活動の効果を分析した。

最貧国は「経済開発のはじご」の一番下の段にも手が届かずにいる。それは「貧困の罨」から抜け出せずにいるからだ。経済学者のジェフリー・サックスは彼の著作「貧困の終焉」でそう提唱した。

ネパールも最貧国にあたり、貧困の罨から抜け出せず、「はじご」を登れずにいる。このクラスの最終課題は世界銀行が最貧国とした国の中から1カ国を選び、その国について調べることであった。私はネパールを選び、ネパールの歴史や地理、デモグラフィックなどの基本情報から、経済的・政治的・社会的状況、また障害者への支援体制などを世界保健機構(WHO)、国際労働機関(ILO)、国連、世界銀行などの公的ウェブサイトや論文などを使って調べた。また、得たデータから、「貧困の罨」となっているものを特定し、またその罨から抜け出す援助をしている団体を調べた。

4) International Relations and Development / 国際関係と開発

現代、グローバル化が急速に進み、国々は密接な関係を持つようになり、遠い外国で起きた出来事さえも私たちの生活に影響を与え、他人事ではなくなっている。このクラスでは、国際関係の成り立ちや展開、経済的・社会的・政策的開発に関わる国際関係の様々な理論、また国際組織の役割や国際法などについて学んだ。

このクラスの最終課題は、世界銀行のプロジェクトを評価することであった。私はネパールの職業教育訓練強化プロジェクトを評価することにした。ネパールは2006年の民主化以来、識字率、初等教育修了率、雇用率、経済成長率はゆっくりと上昇してきているものの、大半は農業などの単純労働であるため賃金は低いまま、農家の子ども達も家の手伝いの為に学校にもまともに通えず、大人になっても低賃金のままという悪循環が続いている。世界銀行の職業教育訓練強化プロジェクトは2011年～2015年の4カ年事業で、ネパールの(1)教育体制・職業訓練プログラム体制の質を高めること、(2)職業訓練プログラムや教育を受ける機会を拡大することを目的としている。予算は600万ドル。カリキュラムの見直し、教員・トレーナーの養成、学校・組織マネジメント研修、標準テストの作成、奨学金制度や学校への助成金制度の制定、監査委員会の設置などを実施している。この事業の報告書はコチラから

<http://documents.worldbank.org/curated/en/docsearch/projects/P104015>

